

第47号

かめだより

2015年1月発行



—INDEX—

- P2 …スタッフひろば
- P3 …がん拠点病院推進センターより
AoLaniプロジェクトシリーズ
- P4 …地域医療機関さまより
- P5 …当院診療科より
- P6 …メディカルレポート
—院内部署のご紹介—
- P7 …NST委員会発 栄養のお話
- P8 …マイブーム
勉強会・研修会トピックス



スタッフひろば

地域医療連携室メンバーです！

<氏名・①部署/職種・②血液型③子供の頃の夢>をご紹介します。

50音順

打野弘子



- ①総合相談室 / 看護師
- ②B型
- ③雲になって色んな所に行きたい

大橋洋子



- ①地域医療連携室 / 事務
- ②A型
- ③ケーキ屋さん

鎌田喜子



- ①総合相談室 / 医療ソーシャルワーカー
- ②O型
- ③スチュワーデス (TVドラマで「アテンションプリーズ」を見てあこがれた)

唐鎌房子



- ①地域医療連携室 / 事務
- ②O型
- ③音楽家 (歌手・楽器奏者・指揮者)

草薙洋



- ①診療部 (消化器外科) / 医師
- ②B型
- ③探検家

栗栖千幸



- ①亀田医療大学看護学部 / 専任教員 (看護師)
- ②ガク型
- ③バレーボールの選手になる事

児玉照光



- ①総合相談室 / 医療ソーシャルワーカー
- ②O型
- ③おまわりさんになりたかった

斉藤正子



- ①看護管理部 / 看護師
- ②O型
- ③幼稚園の先生 (子供と遊ぶのが楽しく学校の春休みなど忙しい親に変わって近所の子供を集めて子守をしていました)

杉田登子



- ①地域医療連携室 / 看護師
- ②A型
- ③記憶にございません

高島和恵



- ①総合相談室 / 看護師
- ②O型
- ③子供の頃の記憶が定かではありませんが、中学生で看護師しか考えられませんでした

中村雅代



- ①地域医療連携室 / 事務
- ②A型
- ③スチュワーデス

新田静江



- ①亀田医療大学老年・在宅看護学領域 / 教員 (看護師)
- ②B型
- ③小学校卒業文集には「外交官」と書かれてました

林裕子



- ①地域医療連携室 / 事務
- ②A型
- ③幼稚園の先生

番場陽平



- ①診療部事務室 / 事務
- ②O型
- ③道路工事のおじさん

平松綾子



- ①診療部 (腫瘍内科) / 医師
- ②...
- ③絵画修復師

丸山祝子



- ①看護管理部 / 助産師
- ②A型
- ③看護師さん

三河貴裕



- ①地域医療連携室 (室長) ・診療部 (感染症科) / 医師
- ②O型
- ③宇宙飛行士 (占い師さんによると総理大臣)

安室修



- ①薬剤部 / 薬剤師
- ②A型
- ③魚に関わる仕事

吉野希望



- ①地域医療連携室 / 事務
- ②B型
- ③プロ野球選手

吉野有美子



- ①総合相談室 / 看護師
- ②A型
- ③保母さん/声優

がん拠点病院推進センターより

がん相談支援センターについて

今回はみなさまに、がん相談支援センターの活動を少しでも知って頂ければと思います。当院のがん相談支援センターはKタワー1階の総合相談室内にあります。メンバーは生活・福祉の専門職であるソーシャルワーカー3名、退院支援看護師2名の計5名です。

①患者さま・ご家族のがん相談

がん治療、セカンドオピニオン、受診・入院相談、医療費や介護保険等、患者会の情報提供、などの相談に対応をしています。遠方の方からの相談も多いです。

②アロヒカイの事務局(患者・家族会)

アロヒカイは当院のがん患者・家族会です。『アロヒカイ』はハワイの言葉で“きらめく(ALOHI)海(KAI)”を意味します。患者さまやご家族ががん向き合いながら、当院の前に広がる晴れた日の海のようにきらきらと輝いた人生を送れるようにと願いを込めて始まった患者・家族会です。

活動は毎月第4月曜日の13:30~15:30にB棟4階の一室で行っています。患者さまとご家族が主体的に活動しています。例えば、お互いの近況報告や、新しいがん治療の情報や、ウィッグの紹介など、元気になるお話を繰り広げています。私たちは、その会の運営をサポートしています。

③ナチュラルガーデンの事務局

ナチュラルガーデンは四季折々の野菜とハーブを見て・触って・食べて、自然と触れあう場です。K棟バスロータリーの一角にあり、がんの経験がある人ない人のボランティアの方が土いじりをしながら植えたり収穫したりしています。

実際に入院している患者様とご家族と一緒にガーデンを散歩し、和まれ、目で楽しみ、香りで楽しみ癒しの場にもなっています。ボランティアの方も作業中に患者さま達に直接声をかけられるのを励みにしています。

④書籍・冊子の管理

がん相談支援センターで購入した書籍をワゴンに乗せ、患者さま情報プラザ・プラタナスに置き書籍の貸出を行っています。また、患者さま・ご家族が自由に取れるよう、がんの疾患別の冊子もプラタナスに置いています。患者さま・ご家族が、必要な時にご自身の情報を得られるように努めていきたいと思っています。 総合相談室 がん相談支援センター 中村尚紀



AoLaniプロジェクトシリーズ



地域医療連携とAoLani(アオラニ)プロジェクト ～ 院内ネットワークから地域ネットワークへ～

情報戦略室部長・室長
鉄蕉会CIO 中後 淳

シリーズ-3: AoLaniプロジェクトとクラウド技術

シリーズ-2では、亀田グループの地域医療連携に向けた情報通信基盤の考え方についてお話しました。今回はクラウド技術の考え方についてお話します。

近年、情報通信業界では「クラウド」が大変な注目を集め、大手企業がこぞってクラウドに力を入れています。従来は、個人や企業のコンピュータの中にデータやソフトを保管し、管理するのが一般的でした。「クラウド」では、インターネットで繋いだ先にデータやソフトが置かれ、専門のサービスを提供する企業が管理します。大きな違いはインターネット環境さえあれば、いつでもどこでも情報を手に入れ、最新のソフトで処理することができるようになることです。

これは現金や紙の証券が電子化され、銀行や証券会社で管理するようになった流れとよく似ています。ATMやインターネットが整備されてからは、現金や証券を金庫で管理する人はほとんどいなくなりました。便利であることと、安心・安全であることが両立し、買い物まで現金が必要ない時代になっています。情報もお金と同じように重要で膨大な財産になり、個人や企業で管理するのは大変なコストがかかる割に、データ消失などの危険も防ぎきれません。

個人の利用に目を向けると、無線通信環境の整備が進み、スマートフォンが普及するとともに、Eメール(Gmailなど)やショートメッセージ(LINEなど)、SNS(Facebookなど)はすでにクラウドを利用するのが当たり前です。写真やスケジュールなどもクラウド上で管理することが多くなってきました。企業においてはインターネット上にデータを保管するのはとても便利である一方、情報漏洩などセキュリティの問題やコスト面からまだまだクラウド化は遅れています。しかし、今後はセキュリティの確保ができないクラウドサービスは淘汰され、安心・安全であることが当たり前になるでしょう。安心・安全が確保され、普及が進むとコストも改善されます。利便性を考えれば一気にクラウド化が進むこととなります。

亀田グループでは、この流れを必然ととらえています。医療者や医療機器など医療資源を効率的に活用し、事故や災害に強い情報通信基盤を作るために、クラウド化はAoLaniプロジェクト最大のキーワードです。医療情報という非常にデリケートな情報を扱うため、段階的にセキュリティを確保しながら、恐れず新しい技術を取り入れAoLaniプロジェクトは進みます。

医療法人社団聖光会聖光会病院のご紹介 広報部 関本好正氏

聖光会グループについて

医療法人社団聖光会グループは千葉県のほぼ中央に位置する豊かな自然に囲まれた長柄町を拠点とし、高齢者のための医療施設「聖光会病院」、居宅における生活への復帰を支援する介護老人保健施設「長柄ケアセンター」、居宅での生活を支援する居宅介護支援事業所「たんぽぽ」を有しております。

聖光会病院は、1991年7月開設の療養型(医療保険)に対応した、長期入院ができる病院です。病床数は239床で、診療科目は内科・神経内科・胃腸科・リハビリテーション科。東館に外来と各種検査室、西館(180床)・南館(59床 2014年7月新設)に療養型病床があります。

理事長
齊藤光徳(さいとうみつのり)先生



外観

療養病棟(西館)



療養病棟(南館 2014年7月OPEN)



南館談話室



談話室

南館内観



病棟

病室



ナースステーション



長柄ケアセンターは、1996年10月開設の入所138名・通所100名(デイケア)に対応した介護老人保健施設です。ご利用者様が快適な看護・介護サービスが受けられるよう、広々とした設計で作られており、毎日の交流の場として、ゆったりとくつろげるデイルームや大きな浴室なども備えています。最新の設備と真心で家庭復帰のお手伝いを致します。

たんぽぽは、要介護と認定された方で、介護保険の在宅サービスを利用したい方に対して、介護支援専門員(ケアマネージャー)が、介護を必要とされる方の状態やご希望をお聞きしながら一人ひとりに合ったケアプランを作成します。対応地域は長生郡市・市原市内。

世界に例を見ない早さで少子高齢化が進む中、医療制度改革の対策以上に高齢者介護・医療の重要性と、地域医療施設としての早急な対応性を認識し、これからも医療のスペシャリストとして地域に密着した高齢者介護と医療の発展と、より質の高いサービスの提供と、健康で安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

救命救急科 部長 田中研三

いつも院内並びに地域医療機関の皆様には大変お世話になっております。亀田総合病院救命救急科の田中研三と申します。当科では1次から3次まで、内科的疾患、外傷を問わず、救急センターに来院されるあらゆる疾患に対応しております。当センターは南房総半島全域を医療圏に持ち、昨年は救急車患者搬送3,554名、ドクターヘリ患者搬送169名を受け入れ、年間救急外来受診患者数は24,967人でした。多様な症例に対応するため、医師、看護師だけでなく、薬剤師、臨床検査技師など多職種が救急初療から携わり、良好なチーム医療の提供を目指しております。患者様の搬送に1時間必要となるケースも多く、救急センターでの診療に加えて、ラピッドカー、ドクターヘリ、東京都島しょ救急での自衛隊ヘリや救急車への医師同乗など、プレホスピタルの活動も積極的に行っています。また、災害医療にも積極的に取り組んでおり、東北地方太平洋沖地震では災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣や、石巻赤十字病院への医師派遣を行いました。また、いわき市周辺からの血液透析患者様の受け入れでは、総合内科(旧総合診療科)、腎臓高血圧内科、その他地域医療機関の方々と診療科・職種を越えた連携により、平時の診療時には起こりえない混乱も乗り切ることができました。地域救急医療の最後の砦として今後も努めて参りたいと思っておりますが、それには地域の先生方との連携が不可欠です。ご指導ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



ドクターヘリからの救急搬送



救命救急センター



救命救急科 部長 田中研三医師

在宅診療部 部長代理 大川薫

訪問診療は、医師とコメディカルとが協働して動く在宅医療部が行っています。

亀田総合病院Kタワー1階にある同じオフィス内に、医師、訪問看護、ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、退院支援ナースが机を並べて仕事しています。また、ヘルパーステーションも併設されています。他職種が同じオフィスにいるため、迅速で頻回に患者さま情報の共有を行うことができます。様々なカンファレンス意外にも、お互いの顔を見ながらの短いやり取りが可能になっていることが、文字通りの“多職種連携”を実現させています。

さらに、総合病院の中にあるため、退院時からの訪問診療への導入、および急性疾患での入院時も、電子カルテと医療スタッフによる情報がシームレスになっています。加えて、総合病院の一角に在宅医療の専従医師が常駐していることも大きな特徴です。

訪問スタッフの構成は現在、常勤医師3名、看護師11名、理学療法士3名、薬剤師2名、栄養士2名、他に歯科センターの訪問チームが週1回加わります。

訪問対象となる患者さまは、悪性腫瘍、脳血管障害、慢性呼吸不全、慢性心不全、慢性腎不全、虚弱高齢者、神経変性疾患、認知症、脊髄損傷、膠原病、小児の脳性麻痺後・先天性疾患などで通院が困難な方です。

都会では来るべき高齢多死社会への迅速な対応が叫ばれています。しかし、房総地域では逆に人口減少・超高齢化が進み、都会とは違った対策が必要となってくるのかもしれない。

病院や診療所だけでなく、異なる事業所の医療・介護に関わる様々な職種の人たちが、“顔の見える関係”を広げていくことで、他のどの地域よりも安心して暮らせる房総となってゆくに違いありません。



在宅診療部 部長代理 大川薫医師



在宅診療部 医師



地域医療支援部

NST (NutritionSupportTeam: 栄養サポートチーム) より、
栄養関連のトピックを発信いたします。

さくら食について

◇さくら食について

「食事のにおいが気持ち悪くて食べられない。特におかずのにおいが…。」
化学療法を行っている患者さまとお話ししているとよく聞くフレーズです。

当院では化学療法中に嘔気などの影響で食欲が低下している時に、少しでも食事を食べて頂くことを目的に化学療法食を提供しています。

「化学療法食」という記載では患者さまに不快感を与える可能性があること、また他の患者さまに知られたくない方もいることから呼名を「さくら食」としています。

名前の由来はやわらかな印象があり、さくらの花言葉に淡白(あっさりとした)とあり、提供する内容に近いイメージであるためです。

食事内容

①においが少ない ②量が少ない ③口当たりが良い

以上の3点を考慮したメニュー構成で1週間サイクルの献立になっています。

月・木曜日

朝:おむすび150g(塩or梅)、焼き海苔、ヨーグルトor牛乳

昼:素麺90g(温麺)、ゼリー

夕:蒸しパン、フルーツ盛り合わせ



火・金・日曜日

朝:ロールパン、ジャム、フルーツ盛り合わせ

昼:おむすび150g(ふりかけ)、焼き海苔、卵豆腐

夕:クラッカー、ジャム、フルーツ盛り合わせ



水・土曜日

朝:おむすび(ふりかけ)、焼き海苔、ジュース

昼:そうめん90g(温麺)、フルーツ盛り合わせ

夕:コーンフレーク20g、牛乳、プリン



さくら食はNST介入を行わなくても提供可能です。

しかし、さくら食の献立が嗜好にあわない、サイクル数が短いため飽きてしまうという患者さまもいらっしゃいます。その際は少しでも食べやすくなるような工夫や調整をご提案していきます。

ご挨拶

厳寒の候、皆様にはおかわりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。この「かめだより」の形になってから、当院診療科の紹介と地域の皆様のご紹介が紙面に載るようになり、やっとここまで来たという思いがあります。これも本誌面をご覧になっている方々と、亀田総合病院地域医療連携室・会議に関わっているみんなのおかげだと思っています。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、私は2015年3月一杯を持って、亀田総合病院を退職いたします。あと2ヶ月とすこし、できることをコツコツとやっていきたいとおもいます。



地域医療連携室 室長 三河貴裕

亀田病院スタッフの マイブーム

愛する永ちゃん

マイブーム、それは、永ちゃんこと矢沢永吉さん。日本のロック界のパイオニアであり、生き様自体に、数々の伝説を持つ。どんな困難にも、立ち向かい、必ず乗り越えてゆく。そして、やると決めた事は、やり遂げる。不可能を、可能にする男なのだ。成り上がっただけでなく、常にピックであり続ける事、その姿は、まさに男のあるべき姿だと言っても過言ではない。また、私の人生の半分以上の歳月を、恋い焦がれた理想の男である。65歳になった現在も、格好良い。あの格好良さは、内面から、そして、生き様から反映しているのだと思う。毎年、晩秋から暮れにかけて全国ツアーが敢行される。矢沢永吉さんの唄は、その生き様から生まれた唄も多い。一度、ライブに出向いて、魂の唄を聴き、タオルを投げたら、きっと何か感じるものがあるだろう。一日また一日と、最愛の人に会う日が近付き、少しでも綺麗になりたいと願う。恋する女子である(笑)私の想いは、これからも永遠に続く・・・

KAZUYO

いすみ地区にてELNEC-Jを開催しました

11月16日/30日(日) いすみ医療センターにて、ELNEC-Jちばコアカリキュラム看護師教育プログラムを開催いたしました。講義・グループワーク・ロールプレイを含む勉強会で、両日共に16名の皆様にご参加頂きました。「研修を受け、過去の自身の対応を反省し今後につなげていきたい」「現場の話が盛り込まれていて解りやすい」「他のスタッフにも参加を勧めたい」等々のご意見を頂きました。

勉強会・研修会ピックアップ



勉強会・研修会スケジュール

マインドフルネス勉強会

～今という瞬間を意識的に生きる～

第4回チーム作りとケアの循環

日時：2015年2月22日(日) 9:00～16:00
講師：高野山大学 教授 井上ウィマラ先生
場所：亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
対象：一般の方・他

がんのリハビリテーション講演会

日時：2015年2月13日(金) 18:30～19:30
場所：亀田総合病院Kタワー12階会議室
講師：岡山大学病院総合リハビリテーション部 教授 千田益生先生
演題：がんにおける周術期リハビリテーション
～新しい取り組みを中心に～
対象：医療従事者等

化学療法看護講演会

日時：2015年1月16日(金) 18:00～19:30(質疑含)
場所：亀田総合病院Kタワー12階会議室
講師：千葉県がんセンター
がん化学療法認定看護師/がん専門看護師
山田みつぎ先生
演題：経口抗悪性腫瘍内服時の副作用マネジメント
対象：医療従事者等

放射線治療講演会

日時：2015年2月20日(金) 18:00～19:30(質疑含)
場所：亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
講師：公立大学法人横浜市立大学
学術院医学群医学部放射線医学 講師 小池泉先生
演題：サイバーナイフを用いた高精度放射線治療
対象：医療従事者等

緩和ケア基礎研修会

日時：2015年2月7日(土) 9:00～17:05
" 8日(日) 9:00～17:20
場所：亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
対象：医師・看護師・コメディカル等

がんの栄養管理講演会

日時：2015年3月13日(金) 18:00～19:00
場所：亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホール
講師：福井県立病院 内科 医長/NST 栗山とよ子先生
演題：根拠に基づくがん患者の栄養管理と当院NSTの取り組み
～特に咽喉頭・食道がん患者の場合～
対象：医療従事者等



医療法人鉄蕉会亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室

発行責任者：亀田 信介 編集責任者：唐鎌 房子 TEL：04-7099-1261[内線7156]

